

郷土館 発 鐵道のお話 Ⅲ

前回、津具にある鉄道資料「中□鐵道伊那及足助線踏測平面略圖」を紹介しました。今回は、予備知識としての鐵道建設の歴史と路線図（計画線を含む）を紹介します。

※□は文字不明

明治十六年（一八八三）

東京～大阪を結ぶ幹線鐵道である中仙鐵道の建設が決定される。

明治十九年（一八八六）

閣議で東京～京都を結ぶ路線は、東海道に沿うものと決定される。中山道に沿う建設計画は残る。

明治二十二年（一八九九）

東海道鐵道線…新橋～神戸間が開通する。明治二十八年

に「東海道線」という名称になる。

明治二十五年（一八九二）

中仙鐵道は中央線と改められ、山梨県を通り諏訪を経て伊那谷もしくは西筑摩郡を通ると決定された。

明治二十七年（一八九四）

中央線は木曾谷通過と決定される。

（三河と飯田を結ぶ鐵道建設の機運が残る）

明治三十三年（一九〇〇）

信三鐵道予定路線図（信三鐵道創立申請書類：稲武町誌）にみられるような計画も立案された。

予定路線図では、飯田と甲府を結ぶ路線は、南アルプスを貫く経路になっています。

（奥三河郷土館学芸員

渡邊 俊也）

木曾谷を通る中央線は、明治44年（1911）に東京～名古屋間が全通しました。

